

学校教育目標	よく考える子 思いやりのある子 明るく元気な子
目指す学校像	「安全・安心・信頼」を基盤に、一人ひとりが輝き、思いやりあふれるあたたかい学校

重点目標	1 児童が主体的に学びに向かい、生きる力を育む豊かな教育の実践 2 あたたかな交流を通して、児童の心を育む教育の実践 3 コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携・協働の推進、情報発信の充実 4 施設・設備等への対応及び掲示教育の推進 5 教職員も主体的・対話的に学ぶ体制の強化
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学校自己評価				学校運営協議会による評価			
		年度目標		年度評価		実施日令和8年2月19日			
		現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
学びの質の向上に関する取組	1	<現状> ○落ち着いた態度で授業に臨み、課題に対して熱心に取り組んでいる。 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、市平均と比べ、概ね良好な結果である。 <課題> ○間違いや失敗を恐れ、多様な考えや思いなどを表現するなど、決まった答えのない活動に躊躇したり、自信がもてなかったりする傾向がみられる。	・「主体性」を育む授業の推進 ・「生きる力」を育む教育の推進	①学びのポイント「じ・し・や・く」を踏まえた授業を展開し、『教師が教える授業』から、『児童が学びを獲得する授業』へと改善する。 ②「学びの指標」を活用し、客観的なデータに基づき検証する。	①児童の学校評価「自分でよく考えながら、勉強していますか」の数値が、前年度と比較して向上したか。 ②「学びの指標」の1回目と2回目を比較し、数値が向上したか。	①児童の学校評価は、肯定的回答が-3.0となったが、「できていない」という回答は0.4ポイント減少した。 ②「学びの指標」における主体性に係る項目は、1回目と比較して向上し、市平均を上回った。	B	授業等で見られる児童の学習状況の実態から考えると、より高い結果を望んだり、自信がもてなかったりという、本校の児童の心情が作用しているように感じる。より学習過程を大切に授業展開をしていきたい。 今年度の反省を踏まえ、総合的な学習について、より地域と密接に関わる内容にブラッシュアップする。 家庭学習の在り方について、学校として共通の方向性をもって推進する。	・児童の自己評価が低い傾向があるため、基準があってもよいと思った。 ・生活と結びつける学習「新しい家庭学習」は、わかりやすく、子どもに好評だった。 ・多くの体験を積み重ねることにより、児童の新たな学びや力を発見することができた。 ・校外で行われる事業や人との関わりは大変よいので、次年度以降も継続をしてほしい。
		<現状> ○明るく素直で、穏やかに接することができる児童が多い。 ○縦割り活動の「ともだちタイム」を実施し、異年齢との交流の場を意図的に設定している。 ○SC や SSW と密に連携を図り、児童理解や支援を組織的に進めている。 <課題> ○児童が互いに支え合う体験を通して自己有用感を高め、思いやりの心を醸成する必要がある。 ○児童の抱える不安を早期に発見したり、児童が自ら相談したりする体制を一層充実させていく必要がある。	・「思いやり」の心を育み、支え合いの力を高める教育の充実 ・「組織的対応」の充実	①学級活動や児童会活動等において、児童が主体的に取り組む活動を充実させ、相手を思いやる機会を増やす。 ②道徳教育や学級活動におけるいじめ防止プログラム等、指導の充実を図る。	①学級活動や児童会活動等において、児童が主体となる取組を、充実して実施することができたか。 ②道徳教育や学級活動等において、発達支持的生徒指導や課題未然防止教育を実施することができたか。	①児童会や委員会活動において児童の発案による活動が充実した。縦割り活動での下小フェスティバルも新たに実施した。 ②学校公開時における道徳の公開授業や、6月のいじめ撲滅強化月間におけるいじめ防止プログラムを全学級で実施した。	A	児童が主体となり自分たちで考えたことが実現し、そのことが自信となって次への意欲につながる好循環となるよう、教職員の仕掛けやサポートを充実させる。 思いやりの心を育むプログラムを、さらに広げて実施する予定である。	
地域の子どもに関する取組	3	<現状> ○学校運営協議会を母体として、学校、家庭、地域が連携・協働しながら児童を育成することができている。 ○家庭・地域の学校への関心が高く、登下校や学習活動へのボランティアにも協力的である。 <課題> ○学校の様子を発信し、家庭・地域と共に児童の成長を図る体制の一層の充実が求められる。 ○児童が地域との繋がりを実感できる取組を推進することが求められる。	・学校と地域、家庭の「連携・協働」の推進 ・「情報発信」の充実	①学校運営協議会において、共通理解を図り、目指す方向性を見出すことができたか。 ②児童が主体となった地域貢献活動を実施することができたか。	①学校運営協議会において、共通理解を図り、目指す方向性を見出すことができたか。 ②児童が主体となった地域貢献活動を実施することができたか。	①委員の皆様との温かい積極的な働きかけの御協力を得て、児童が地域の一員として活躍することを目指す方向性が明確となった。 ②年賀状や地域の方へ感謝の意を示す取組等の活動を実施することができた。	A	学校運営協議会に児童会が参加するようになって2年が経過したことから、児童の意識や取組の発想に成長が見られたので、さらに児童に託してアイデアを募り、活動の充実と児童の意識の向上を目指したい。	・児童が学校運営協議会に参加し、委員と意見交換できる場があったことがよかった。 ・年賀状やありがとうキャンペーンで、児童からのメッセージが嬉しかった。 ・ブログがよかった。SNSを活用した情報の発信について、地域側からも発信に努め、よりよい交流につなげていきたい。
		<現状> ○校庭が広く、体育や休み時間等において伸び伸びと過ごすことができる。 ○校舎については老朽化が見られ、不具合が生じてきている。 <課題> ○リフレッシュ工事が延期となり、今後の見通しが立たないことから、改めて校内の状況を見直し、優先順位をつけて老朽化や不具合への対応が求められる。	・「施設設備環境」への調整 ・「掲示教育」の充実	①リフレッシュ工事が延期になったことを踏まえ、修繕等の優先順位等を改めて見直し、教育委員会と積極的に連携を図りながら対応を進める。 ②廃棄物の処理を定期的に進める。	①老朽化等への対応について具体的に働きかけ、進めることができたか。 ②廃棄物の処理を進めることができたか。	①ごみ置き場について、教育委員会へ複数回にわたって直接働きかけ、給食室から出るごみと教室から出るごみを分けて設置していただいた。 ②教職員作業の日を設けて処理を進めた。	B	リフレッシュ工事が令和11年度に始まることになったが、まだあと3年あるため、引き続き教育委員会とも連携を図りながら対応を進めていく。 廃棄物処理も、計画的に進める。	
教育環境の整備に関する取組	4	<現状> ○校庭が広く、体育や休み時間等において伸び伸びと過ごすことができる。 ○校舎については老朽化が見られ、不具合が生じてきている。 <課題> ○リフレッシュ工事が延期となり、今後の見通しが立たないことから、改めて校内の状況を見直し、優先順位をつけて老朽化や不具合への対応が求められる。	・「施設設備環境」への調整 ・「掲示教育」の充実	①校内掲示の分担を明確にし、各担当が意図的・計画的に工夫した掲示物を作成する。 ②児童の成果物を掲示することを通して掲示教育の効果を高める。	①季節や学校行事等と関連付けるなどの工夫をし、校内掲示を更新することができたか。 ②児童の成果物の掲示を、昨年度より充実することができたか。	①校務分掌における掲示教育部が割り当てを明確に指定し、定期的な更新も働きかけ、各学年工夫した掲示を実施した。 ②職員室前に新たな掲示コーナーを作成し、児童の成果物を掲示した。	A	足を止めて掲示物を読んでいる児童の姿が多く見られ、児童の成果物については下級生が上級生をお手本として上達する成果が見られるなど掲示教育の有効性を実感したので、引き続き充実を図る。	・施設の老朽化がある中、少しでもよい環境確保のために工夫をして整備に取り組んでいると感じる。 ・掲示されている図工や書写などの作品に感激した。 ・学校運営協議会の掲示物があることで、児童から声を掛けられることが増え、掲示物の効果を実感した。
		<現状> ○教員のキャリアとして、若手・中堅・ベテランのバランスがとれている。 ○担任外の教員を各学年の副担任として割り当て、チームで取り組む体制をとっている。 ○3年計画で取り組む学校課題研究の2年目となった。 <課題> ○「働き方改革」の一層の推進が求められている。 ○新学習指導要領を実現する「令和の日本型教育」の一層の推進が求められている。	・「学校DX推進委員会」を核とした改善の推進 ・「チーム学校」の推進	①今年度から立ち上がった「学校DX推進委員会」において、各学年における現状や課題を把握する。 ②本校としての指導の方向性や系統性、タブレットの管理体制、働き方の改善策等を打ち出す。	①「学校DX推進委員会」を定期的に関き、協議することができた。 ②協議する中から、具体策等についてポトムアップすることができたか。	①「学校DX推進委員会」を、計画より回数を増やして実施し、今年度発足した組織であったが機能を果たすことができた。 ②各学年等における具体的な取組を委員会と共有するともにタブレット上でも共有することができた。	B	給特法の改正に伴い、「働き方改革」の一層の推進が求められる中、具体的に、どこにどのような対応策を講じるかが大きな課題である。今後、教育委員会から示される方針を踏まえ、対応について検討し、保護者や地域へも発信する。	
<現状> ○担任外の教員を各学年の副担任として割り当て、チームで取り組む体制をとっている。 ○3年計画で取り組む学校課題研究の2年目となった。 <課題> ○「働き方改革」の一層の推進が求められている。 ○新学習指導要領を実現する「令和の日本型教育」の一層の推進が求められている。	・「チーム学校」の推進	①担任外教員を各学年の副担任に割り当て役割を明確にし、チームとして様々な実務を遂行する。 ②教員の主体性に基づくグループ編成をし、学校課題研究を進める。	①副担任制により、チームとして各学年の運営や業務を遂行することができたか。 ②教員の主体性に基づくグループのよさを生かし、研修が深まったか。	①職員室の座席配置を変えて副担任が日常的に学年に関わるようにしたり、副担任会を開いたりし、チーム支援を整えた。 ②今年度より初のグループ体制で研修を行い、自主的な授業公開も行った。	A	教員の配置人数に大きく左右されるが、次年度も中学校のような副担任的な関わりで支援ができる体制を継続する。 3年計画の最終年度となる学校課題研究を、教員の主体性を重視して推進する。			

